

Cult-Sys

Culture and system



岩手大学人文社会科学部国際文化課程文化システムコース
コース紹介パンフレット

目 次

*コロキウムについて ----	2
*授業の紹介 -----	4
*学生生活について ----	10
*巡検 -----	12
*卒業論文 -----	13
*学生インタビュー ----	14

人文社会科学部国際文化課程文化システムコース

略して！ 「文シス」

文^{シス}必修!

文化論コロキウム

コロキウム って何??

ラテン語の colloquium（談話、会談）に由来していて、現代語ではフランス語に colloque（「コロッケ」じゃないよ）として受け継がれ、討論会やシンポジウムなどを意味します。簡単にいうと、授業の中であるテーマを取り上げ、議論するのです！

文化論コロキウム（通称：コロキウム）は、文化システムコース必修科目のひとつ。コース専攻生は学年を問わず全員、文化システムコースの教官も全員が出席しておこなわれます。事前に表明されたテーマについて、グループでプレゼンテーション&問題提起をし、問題の文化的側面や本質を明らかにすべく参加者全員で質疑&討論を展開します。発表能力や討論能力を養うだけでなく、幅広いテーマを様々な視点から検討することにより、問題の把握や課題探究能力を養う絶好の機会となっています。

常に真剣なまなざりやかな雰囲気のもとで行われていますが、事前準備に時間がかかり、当日には資料やしじゅめを配布し、発表後は報告書を提出するなど、通常の講義に比べて積極的に活動しなければならないものです。



① 4名前後のグループに別れてテーマを決める。気になることについて調べ議論する。



② 班の話し合いでの不足部分など、文献を読んだりして、個人で調べる。



③ ①と②を繰り返し、班の中での議論を深め、レジュメを作成する。



④ 発表。プレゼンテーションをし、授業中にコース全体で議論する。



⑤ 議論の内容をまとめて、報告書を作成する。

コロキウムの流れ

過去に扱ったテーマ

- ・タスポカードについて
- ・裁判員制度
- ・漫画について
- ・死刑制度の是非
- ・もったいない精神とは
- ・フィンランド教育に学ぶ

Q コロキウムについてどう思いますか？

・自分も含めて学生の発言が少なく、先生の議論が中心になってる。先生達で話すのではなく学生が議論しやすいようにヒントを与える感じにしてほしいと思う。班分けがランダムなので、友達同士が固まらずに新しいつながりができる点がいいと思う。

・学年の違う人と話し合いをするので、大変でもあるし楽しくもあります。集まりや調べものの日にちや時間を決めて、それをしっかり守るように気をつけることで、社会に出るための基本を養えると思います。課題は、出席する皆が考えることを気兼ねなく発表できるようにする点です。

・参加する前は、『学年の違う先輩方と一緒にグループになって発表するなんて緊張する！』などと怖じ気づいていた面もあったし不安もたくさんあった。実際参加してみて…先輩が優しいし親切！話し合いをリードしてくれるし、意見も汲んでくれる！先輩方との交流にコロキウムは欠かせないものだとは今は思うし、発表の準備も何気に楽しい(´▽`)コロキウムの授業については…思っていることを発言するのはちょっと緊張するけど、先生・先輩・同年代など様々な人たちがいる中で自分の考えを話せる力がつく(自分次第だけどね☆)

色んな考えを持ったひとがいて、みんな個性があって毎回勉強になります。

・コース全員で議論する授業はコロキウムだけで、様々な考え方や見方ができる貴重な時間だと思う。

・学生が主体となって進めることができるし、プレゼンテーション能力がつく。

社会文化思想論演習



私の本来の専門はヘーゲルやルソーなどのヨーロッパの近代思想ですが、新渡戸稲造や啄木、賢治などの岩手の思想家にも関心があり講義でとりあげたりしています。けれども、ゼミでは最近しばらくは現代の若者文化をめぐる思想的問題、「個性主義」や「ポストモダン思想」をテーマにしています。最近、「島宇宙化」といわれるように、同じ若者の間でも話が通じにくくなっているようですが、その中でゼミが共通の話題で話し合える場になればいいと思っています。

池田 成一 先生

池田先生の演習は若者文化やいじめの問題、ゆとり教育、ケータイ小説、男らしさなど私たちにとって身近な題材を扱っているので、みんなの関心が高く、人気のある演習です。具体的には関連のある図書を読み、先生を含め受講している学生で意見を出し合い、考えを深めていきます。現代のいじめが過去のいじめと違うということに気付いていましたか？メール依存症は「つながること」に対する嗜癖だと考えたことがありますか？ゆとり教育の問題点は学力低下だけではないことを知っていますか？ひきこもりとケータイ小説との関係って何だと思いますか？このように池田先生の演習では今まで気付かなかったことに気付かされたり、当たり前だと思っていたことにも新たな視点を持つことができたりするようになります。

池田先生は授業中でも気兼ねなく話し掛けてくれるので、学生も意見が出しやすく、アットホームな雰囲気での授業です。過去の卒論のテーマには「ウェブ社会におけるSNSの役割とは—mixiでのコミュニケーションに見られるSNSの特徴—」など（p.13 参照）があります。また、演習というのは先生と学生の討論が中心の授業ですが、この演習ではちょっと違います。池田先生は話し出したら止まりません。ザ・マシングトーク 池田！（笑）でも、その長い話の中には為になる話がいっぱいあります。さすが東大卒！こうして、池田先生はみんなを釘付けにさせ、気づいたら授業が終わってしまうほどです。

そして、この演習ではあの文シス名物、池田先生のアレが見られます。アレとは授業を取ったからの楽しみ！（笑）とにかくこんな感じで池田先生の演習は楽しいので、文シスに入ったあかつきには、ぜひ先生の演習を取ってみてくださいね。

ジェンダー文化論演習



男らしさ／女らしさをめぐる諸問題は、私たちの日常生活にあふれています。そしてその問題を生み出してきた歴史的・社会的背景は、非常に大きなひろがりを持っています。それらを多様な手法で解明しようとするのがジェンダー研究です。本コースにおける海妻の授業では、ジェンダー研究の主要な理論や、ジェンダーに関する諸統計の現況、新旧様々なフェミニズム思想の骨子などを学んでいきます。また、市民や公共団体による地域の男女共同参画推進の動きふれる機会も、積極的にもうけます。

海妻 径子 先生



海妻先生は、文シス唯一の女性の先生で、他の先生が暴走したときに、それを止めてくれる、また、わかりやすいように通訳してくれる、頼れる存在でもあります。

海妻先生の専門はジェンダー文化論です。ジェンダーとは、歴史的・文化的・社会的に形成される男女の差異、また、その差異に対する知識のことです。キーワードは、フェミニズム、男女、性、セクシュアリティ。社会や文化の中での女性の役割などを扱っているようです。

平成21年度前期のジェンダー文化論演習のなかで、具体的にやっているのは、「主婦論争」というもので、女性についてはもちろん、その中でも「主婦」について詳しく議論しています。さまざまな論文や文献を読みながら、主婦や女性の歴史について学ぶ、という方法で授業を進めています。他の先生の授業でももちろんですが、演習とは、講義のようにただ聞いて、学ぶというだけでなく、議論、つまりディスカッションすることが大切です。成績評価基準にも大きく関わってきます。

海妻先生の演習の授業でおもしろいのが、「ひとこと報告」の時間があることです。毎回の授業で、4年生の卒業論文の進行状況を15分程度の時間をとっています。演習の時間というのは、4年生の卒業論文の指導の時間でもあります。ですから、演習の授業中に卒業論文の発表をすることは、他の先生の授業でもしばしばあることです。しかし、毎回の授業で報告するのは珍しいと思います。これも、先生が親身になって見守ってくれていることの現れではないでしょうか。（もちろん、他の先生が親身になっていないということではありません！！）

この演習の授業をとっている学生からも評判がとても良く、「先生の例えがわかりやすく理解しやすい。」「話がとてもおもしろい」という意見がありました。ジェンダーについて興味を持っている方、よりよい社会変革を目指す提言や構想、思索を表現する力を養うことを目指したい方にはおススメです。

社会文化論演習



社会における諸現象を文化現象と捉え、そこにみられる法則性を追究する領域と考えている。ところで、何が文化であり、どのような現象が文化現象であるか。「文化」ということばの意味を定義するのは、非常に難しい。しかし、「文化」という日本語に当たる英語が「culture」であり、また、その動詞形が「cultivate」であることは周知の事実である。したがって、「文化」とは、人間がたがやしたもの、すなわち自然に手を加えたものである。そうすると、ほとんどのものが文化現象といえる。しかし、社会文化論では、主として芸術や思想に現れた文化現象を対象にして、社会のさまざまな問題を考える。

小林 英信 先生

小林先生の社会文化論演習では学期ごとに取り上げる文献や小説について個人で一度全部読んでから、割り当てられた箇所について自分の解釈や問題点の指摘を発表し、それについて皆で議論をしていきます。小説では宮沢賢治の『銀河鉄道の夜』を教材として一学期まるまる使って少しずつ皆で読み進めていきました。『銀河鉄道の夜』は宮沢賢治の作品の中で代表的なもので、このゼミを取っていたほとんどの人が以前に読んだ事があるものでした。しかし作品の中に出てくる鉱石や植物、星座や音楽を逐一思い浮かべたり、主人公とその他の登場人物の設定や人間性を考えたり、物語全体の構成とその構成にした意味を考えたりしていくたびに、一度読んだ事があるはずの作品が全く別の作品のように感じられ、今まで以上に「小説って面白い」と思うようになりました。「小説を読む」というのはその物語の起承転結を知ることではなく、文章中にちりばめられた要素からどれだけ作者の伝えたい事を読み取ることができるか、感じる事ができるか、が大切だという事が身にしみて感じられる演習です。

またこの演習では小林先生の雑談(?) もとっても勉強になります。「私の講義を受けるよりも、図書館で本を読みなさい」と断言なさるほど今の学生の活字離れを嘆いていらっしゃる小林先生の、読書経験から来る知識というのは本当にものすごいです。ひとつ質問をすると想定していた10倍くらいの情報量の答えが返ってくるといっても過言ではないかもしれません。少しでも油断すると話についていけなくなってしまうので、この演習が終わると頭が凄く疲れます。とってもスリリングな演習です。

そんな小林先生ですが、ビールを飲みながらの読書会を開いたり、卒論の勉強会をして下さったり学生とのつながりをととても大事にしてくださいます。今年で還暦を迎えられるので講義で会う事はないかもしれませんが、機会があったらぜひ色々お話を聞いてみてください。

文化記号論演習



日常の様々な事象はどのように解釈すればいいか、そこには何らかの決まりごとが潜んでいるのか、こうした疑問を感じた人は既に文化記号論の扉を開いています。そこは未知の空間というよりは、慣れ親しんだ情景と出会う場所です。ただし、そこでは、同じ対象であっても、これまでとは観点や意味合いが違うものとなっているでしょう。文化記号論とは、ものごとを記号と見なすことで、その基底にあるメカニズムを炙り出す作業です。

後藤 尚人 先生

「記号論という学問を骨の髄まで修得したならば、もしかするとこれからの人生、嫌になるかもしれない」というのが、講義を受けていて率直に感じる印象です。記号論とは、論者によって定義が様々になされていますが、C.S. パースはこう豪語しています。「人間や生物や動物やあるいは宇宙の様々な現象全体を記号のプロセスとして捉えれば、どんな現象にせよ、私にとって記号研究として行われなかったものは何もない」この人もまた、旺盛な研究意欲をお持ちの方です。

よく、「知らない方が幸せなこともある」という金言を目にしますよね。この金言と同じ印象を持ったと先に述べましたが、メディアの政治・社会問題の報じ方のワンパターンさや、映画やCM・広告に見られるある種のステレオタイプ=ひな形の存在の発見など、記号論を勉強するうちに、メディアに現れる人やモノの一举手一投足がつつい気になってしまいます。娯楽要素の強いものであれ、つつい斜に構えたり、ひねて見てしまう... という弊害が(笑) テレビの前で難癖つける親父が「うるさい!」と、奥さんに一喝されちゃうアレと同じ構図ですね。

けれども、それもある意味「嬉しい悲鳴」と捉えてしまえば、より深く物事の「真理らしきもの」に近づくことが出来るだろうと思います。

とはいえ、最近のゼミで扱う内容は「メディア論」に学生の関心が移っています。一例を挙げると、「テレビメディアによる環境問題の報じ方」「ブログ論」「ウェブ進化論」「ジブリ映画に見られる宮崎駿の思想」「テレビニュースの検証を試みる」「世論と輿論について」「マンガに潜むコード」などなど。

私がとりわけこのゼミを気に入っているのは。どのゼミよりも少人数であるため、発表回数が非常に多いことです。ゆえに、半期だけでも十分に一つのテーマを突き詰められる。そこが良い所です。他のゼミではなかなかこうもいきません。以上、興味を持って頂けたら幸いです。

文化領域論演習



杉浦 直 先生

文化は文学作品や絵画だけではありません。普通の私たちの生活や具体的な場所の姿のなかに現れております。文化領域論演習では、文化地理学、民俗学、文化人類学などの基礎的な考えを学びながら、日常の地域の文化に目を向けていきます。テキストや少し専門的な論文を皆で読みながら、質疑応答や共通の論点を選んで討論したりします。また、バスを借りて実際の地域の姿を見にいたりもします。旅が好きだったり、いろいろなことに興味を持っている方、歓迎です。



杉浦先生の演習は文化地理学、民俗学、文化人類学などのさまざまな分野の文献の中から、自分の興味あるテーマをひとつ選んで読み、発表、討論していく形式です。具体的には、グリーンツーリズムやエコツーリズム、世界遺産、商店街における地域活性化、奄美出身者の同郷ネットワーク、説話文学の舞台、テキヤ集団の構造と維持原理、世界の牧畜民、漁業と鮭供養、ドイツの都市再生、南部曲屋の現状、開発計画と地域文化などを取りあげています。各自発表までにテーマに関連する文献などを読み、知識を深めていきます。この演習を通して、さまざまな地域や民族、そこに存在する多くの特色を知ることができ、新たな発見の連続です。

杉浦先生の研究分野には、人種や民族を扱うエスニシティ論、伝統的な住居形態を題材とする文化動態論、環境と人間との関わりを考える文化歴史地理学など幅広いものです。そのため、先生は多くの国や地域を訪れているので、そこで知りえた興味深い経験談なども聞くことができ、知識が深まります。

受講する学生の多い人気がある演習なので、たくさんの人と意見交換ができ、討論はとても充実しています。また、ひとりひとりが大人数の前で発表するので、プレゼンテーション能力がつきます。演習のときに、たまに杉浦先生が言うダジャレはみんなを和ませています。(笑)

過去の卒論のテーマは、「秋田県におけるローカルヒーローの地域活性化への役割」、「岩手県一関地方における餅文化の変容と行方」、「民族風ファッションの魅力」、「盛岡の大通商店街」、「ロシア極東及びシベリアにおける森林資源管理・利用と環境問題」などです。杉浦先生は穏やかで、優しく、学生からの相談にも親身になって答えてくれる先生です。今は研究のためシアトルに行っているのですが、帰国したらおみやげ話も聞けるはずですよ。

表象文化論演習



学期毎にテーマを決め、関連する作品を学生達が一つずつ選び、調べてきて発表します。最初は何をやっているのかわからなくても、学期が終わる頃には、時代とテーマの関係、それが現在においても持つ意味までわかってくるようになります。これまで「シュルレアリスム」「ユートピア」「複製技術時代の芸術作品」「ドン・ファン」「鏡・分身」「水の女」「海」などのテーマでゼミを行ってきました。
研究分野：フランス文学（特にボードレール）、比較文学（仏詩の邦訳、永井荷風）、西洋美術史、宮沢賢治

山本 昭彦 先生

山本先生の専門は、各国文学・文学論、美学・美術史で、演習の他にも表象文化論や、比較文学論という授業をやっています。とっても優しい先生です。

山本先生の演習の授業では、特定のテーマをひとつ決め、参加者全員が分担して調べ、異なる視点から多面的にアプローチしていく、という方式です。平成21年度前期のテーマは「シュルレアリスム」です。シュルレアリスムとは、シュールな運動のことではありますが、シュールはシュールでも、お笑いで使うシュールとは違ったものです。これは、20世紀の超現実主義的な芸術・文学運動のことです。少し難しいかもしれませんが、理性の支配を退け、夢や幻想など、非合理的な潜在意識の世界を表現することによって、人間の全的解放を目指す、少々型破りな芸術運動です。

今回は、実際のシュルレアリスムに関わったシュルレアリスト達や、シュルレアリスムが影響を受けた思想・人物、シュルレアリスムの頃の時代背景など、実に多面的なところから、シュルレアリスムについて理解していききました。実際に扱ったテーマは、「アンドレ・ブルトン」、「ランボー」、「ダダ」、「シュルレアリスム宣言」、「エルンスト」、「第一次世界大戦と市民生活」、「ヘミングウェイ」、「ダダと賢治」、「日本の前衛」、「錬金術」、「タンギー」、「アラゴン」、「瀧口修造」などです。もちろん他にもアプローチできそうなテーマを先生が紹介してくれますが、学生が自分でテーマを選択することができます。今回は、1つの項目を1人で発表する形式でした。芸術運動を扱うということで、発表の際には、写真や画集をスクリーンに映して、参考資料にすることが多かったです。

シュルレアリスムは、普通の人には理解できないような、変わった思想なので、答えをはっきり見つけられないこともあります。それは、議論や先生の優しいフォローで解決することができます。担当になった人物や思想を、発表にむけて作品などを積極的に調べることで、じっくり研究することができる演習です。

どーなの!?!
気になる!!

文シス生の

1 年生

岩大での学生生活がスタート！はじめは、オリエンテーションがたくさんあり、これに参加することで新しい友達が増え、学生生活について知ることができました。そしてなんといっても、大学生活の最初の難関が時間割の作成！高校までとは違って、自分で履修したい科目を選択していくのだけど、先生たちが手助けしてくれる訳ではないので、友達や先輩と相談しながら決めました。1年前期は、必修の一般教養科目が中心の時間割になりました。また、この頃はサークルの新歓がたくさんあって、無料で飲み食いさせてもらいました！私は、この機会を利用することで自分に合ったサークルを見つけることができました。学校生活以外では、一人暮らしを始めたので、料理、洗濯、掃除を自分でやらなければいけなくなり、このときは、親のありがたみをすごく感じました。やはり、家に一人でいると淋しいと感じることがあり、そういうときにはサークルに参加したり、友達の家遊びに行ったりしました。こういう自由な時間が増えるのも大学生ならではの楽しみです。1年生の前期は今までの生活と違うことばかりで、それに慣れることは大変ですが、友達や先輩、先生との新しい出会いがたくさんあるとても充実した時期でした。

校時	月	火	水	木	金
1・2 8:40-10:10	心の科学 大田 (G1大)			自然と環境 大田 (G1大)	
3・4 10:30-12:00	国際文化入門 大田 (G1大)	現代社会と 大田 (G1大)		英語ゼミナール 大田 (G1大)	英語ゼミナール 大田 (G1大)
5・6 13:00-14:30	英語ゼミナール 大田 (G1大)	ジェンダーの 大田 (G1大)	英語ゼミナール 大田 (G1大)	英語ゼミナール 大田 (G1大)	英語ゼミナール 大田 (G1大)
7・8 14:40-16:10	大田 (G1大)	大田 (G1大)	小田 (G1大)		
9・10 16:20-17:50	大田 (G1大)		大田 (G1大)		

2 年生

2年生前期からは国際文化課程の中でも、アジア文化コース・欧米言語文化コース・文化システムコースのどれかに所属することになり、ここからやっと文シスコースの専門的な講義をたくさん選べるようになります。ただはりきって専門の授業を目一杯とったので、この学期のテスト期間は結構しんどかったです。でも大学で勉強したいと思っていた分野の講義がたくさん受けられたので、難しかったけどやっぱり面白かったという印象の方が強いです。また私の時間割では「法学基礎」や「民法」など法学経済課程の講義がありますが、人文社会科学部では自分の専攻とは別に、他の課程の講義を受けてそれを「副専攻」として認めてもらえるという制度があるので、それを利用して2年生から法学コースの講義も取りはじめました。授業以外の生活では、バイトもサークルも慣れてきたし、時間の使い方も上手になってきたと思います。2年生では環境にも慣れてきて、しかも就活はまだまだ先の話だと思っていたので、私は講義・バイト・サークル以外の時間はある意味一生懸命遊んでました。今思うとその余暇時間で交友関係や行動範囲がすごく広がったので、自分にとってはいい経験だったと思います。

	月	火	水	木	金
1・2				科学と 技術の歴史	
3・4	市民と政治	民法(総則)	法律学基礎	言葉の世界	
5・6	文化と政治論	国際政治学	消費文化論		
7・8	エスノロジー論		文化記号論	文化論 コキヤム	
9・10				政治学	

学生生活

大学生の学生生活ってどんな感じなの!? そんな疑問を解決するために、学年別にどんな生活なのか紹介したいと思います。

3 年生

3 年生前期は授業数が今までに比べてだいぶなくなり、やっと般教もなくなりました。授業内容は専門科目と演習が中心になったので、自分のやりたい分野の勉強により力を入れられるようになり、楽しくなりました。さらに授業数が減ることで空き時間が増えたので自分で自由に使うことのできる時間が多く持てるようになり、勉強の時間だけでなく、部活動やバイト、その他趣味などに費やすことのできる時間も増えました。この頃部活動は3 年生が主体となり、平日は練習、週末には試合があり、その中でバイトも週に3～4 回入っていたので、授業数が減っても時間を余すことはなく毎日を有意義に過ごすことができました。大学生活も3 年目と慣れてきて、毎日の時間をより上手に使えるようになってきたようにも思います。ただ自由な時間が多くなった分、授業に力が入らなくなることもあり、切り替えが難しかったです。後半は就活も少しずつ始まり、その勉強を始めたり、進路に悩んだりということも多くなりました。だけど友達とゆっくり話したり遊んだり、時には相談したりという時間もたくさんあったので、全体的には楽しく充実した毎日を送ることができました。

	月	火	水	木	金
1		社会 文化論Ⅰ			
2		日本経済史 論義ⅣA	メディア 文化論 特講Ⅳ		文化記述論 演習
3				日本史 講義ⅣA	
4				文化論 特講Ⅳ	社会文化 記述論 演習
5		社会 科学論Ⅱ			

4 年生

4 年次は、大学生活の集大成となります。社会に出て後悔しないように、死物狂いで勉強するのがこの時期です。単位を順調にとった者ならば、多くの学生はこの時期に時間割の制約から解放されます。時間割としては「スカスカ」の状態です。同時に就職活動と卒論執筆も重なるので、単位を取っていないと... (ご想像にお任せします) 就職活動は別稿で述べるとして、卒論執筆では担当の先生方に師事し、アドバイスを貰ったり、参考文献をしこしこと読む日々が続きます。せっかく時間があるのですから、専門外の本でもどんどん読みこなしていきましょう。文学や哲学のテキストと格闘するもよし、就職先に関連する分野を徹底的に調べ倒し、卒業後一目置かれる存在になるもよし。いずれにしても、この時期の読書体験が、後々「もっと勉強しとけば良かった (泣)」などと子どもに愚痴をこぼさずに済むのではないかと、と思います (笑)。ただ勉強に遅い早いとは決して無かろうと思います。また「森羅万象、私に無関係なことは無い」と豪語したのは、古代ギリシアの哲学者・ソクラテスだそうですが、こんな壮大なお題目を自身の学問の指針に掲げると、非常に有意義に過ごせるのではないかと思います。この食欲さは見習いたい。是非、頑張ってください。



【 巡 検 に つ い て 】

巡検

巡検って…?

文シスの遠足のよう
なもの。果たしてそ
の実態は？

Photo gallery



文化システムコースでは、1年に2回ほど「巡検」という企画が用意されています。「巡検」とは地理学における学術研究の基礎となるフィールドワークのことです。観光とはまたちょっと違うんですね。この日は夜もすがら研究となります。例年は、前期終了時（7月）と後期開始時（10月）に予定されています。朝夕は「巡検」、夜には「食文化実習」と朝早くから夜遅くまで…「食文化実習」の実態はコースに所属することでおいおい明らかになるでしょう。説明から非常に堅苦しい印象を受けるかもしれませんが、実は非常に楽しい（笑）。学術研究も兼ね、かつコース内における学友・先生方相互の親睦を図る機会でもあります。

去年の巡検は、世界遺産の登録を惜しくも逃した「平泉の文化遺産」や岩手の豪雪地帯として有名な「雫石・沢内巡検」や宮沢賢治ゆかりの地「花巻巡検」などが催されました。岩手県内に限らず、隣県へ足を伸ばすこともあるそうなので、あなたの地元が運良く選抜されたら、この機会に地元の魅力を滔々と語り尽くしてみてください。

写真は「平泉の文化遺産」です。雰囲気だけでも感じとっていただけたら幸いです。

さて、私から一つ提案。「観光立国」が叫ばれて久しいですが、観光って皆さん何だと思えますか？それぞれ答え方はあろうと思いますが、私がこの巡検で得た観光に対する想いを一つ。

一般の観光客は、その観光地が有名になった経緯、つまり高校時代に歴史の教科書で習った日本や日本史を構成した施設（例えば中尊寺金色堂）について、知識が少なからずあるがゆえに、そういった施設を観光の巡回先に求めがちです。これを深く知ることは確かに重要です。しかし一方で、「先人たちが何をどう営んできて、今の私たちの生活にどう通じているのか」という民俗資料的な「先人たちの小さな物語」ともいうべきものについても、知る必要が当然あるわけです。しかし、後者は事前の勉強なしには、観光客らの興味もそぞろで観光先に向かない施設になりがちです。近年では「毎年1個以上の世界遺産候補選定」といった国策を受けて、少々乱発気味に世界遺産候補がリスト入りしニュースで取り沙汰されますが、この安易な流れに一石を投じる意味で「平泉の文化遺産」が選定されたのだと私は解釈しています。つまり、日本史を構成した「平泉」とそれを取り巻く為政者と民衆の「浄土思想」なる願いをドッキングさせ、UNESCOに世界遺産登録を働きかけたように、「先人たちの小さな物語」をも取り込もうとしたのです。残念ながら登録は見送られましたが、敗因は、必ずしも今を生きる人に「浄土思想」の想いが共有されて来なかった一点につきるのではないかと、というのが私の結論です。

長くなりましたが、「平泉」や「浄土思想」などに興味を持たれた高校生は、大学で大いに勉学に励んで欲しいと思います。また、この「巡検」で得られることで何より重要なのは、事前勉強したうえで観光先に臨むこともまた楽しい、この一言につきます。上級生一同、このコースで会えることを楽しみにしています。

卒業論文テーマ一覧

4年間のまとめとして、必ずやることになっている卒論。文シス卒業生が取り組んだテーマを一部紹介します。

H15年

* ケネディ大統領暗殺事件の＜魅力＞（小林英信） * 振袖と成人式—伝統文化の一形態を考える—（杉浦直） * 癒しについて—キャラクターにおける癒しとは何か—（後藤尚人） * 観光化伝統文化—バリ島の観光文化—（杉浦直） * 中学校英語教科書を欧米偏重の視点から考える（小林英信）

H16年

* 日本における地域メディアの特色と機能—新聞、フリーペーパーを中心に—（杉浦直） * 日本におけるジャーナリズムの衰退について（小林英信） * フランスの移民問題と普遍主義（杉浦直） * 現代日本における葬儀の特色と変容（杉浦直） * 性同一性障害について考える—その問題と克服に向けて—（杉浦直）

H17年

* 映像と暴力—映画とは何か—（山本昭彦） * 男女間賃金格差を考える（生物学的な観点と社会制度）（小林英信） * 現代における民俗芸能の存続状況と役割—岩手県北上市における鬼剣舞を例に—（杉浦直） * 歌がもつ力とは何か（池田成一） ファッションショーと流行の関係性（山本昭彦）

H18年

* 現代日本の女性喫煙者に伴うジェンダー規範について（海妻径子） * つくられた異界—遠野物語—（山本昭彦） * 消滅の危機に瀕した言語の再活性化への取り組み—日本におけるアイヌ語の事例を中心として—（杉浦直） * チェ・ゲバラ的英雄論（小林英信） * L E G Oにおもちゃとしての普遍性を探る（山本昭彦）

H19年

* ウェブ社会におけるSNSの役割とは—m i x iでのコミュニケーションに見られるSNSの特徴—（池田成一） * 「かわいい」についての日中の使い方の違い（池田成一） * 盛岡の魅力—都市の魅力論の試み—（杉浦直） * 女性雑誌『non-no』におけるジェンダーイメージの伝達と再生産のゆくえ（海妻径子） * メディアスポーツのドラマ性（後藤尚人）

H20年

* 盛岡の大通り商店街—現状・課題・展望—（杉浦直） * これからの図書館のあり方を考える—岩手県の図書館を例に—（杉浦直） * テレビメディアは地球温暖化問題への認識を変えるか（後藤尚人） * 言語の消滅について—消滅とそのメカニズム—（小林英信） * 現代カナダの先住民居留置社会が先住民女性の生き方に与える影響についての検討（海妻径子）

文シス生にインタビュー

授業や行事についてはわかったけど、文シスにはいったいどんな学生がいるの？どんなことをしているの？
気になるそうですね。学生の生の声で知ってみて下さい。

- ①出身地・出身高校
- ②趣味・特技
- ③所属サークル
- ④文シスでやったこと。研究してみたいこと。
- ⑤高校生へメッセージ

H・H(3年)

- ①仙台市・宮城県立泉高等学校
- ②海外ドラマ、料理、食べ歩き
- ③ボランティアサークル Smile
- ④若者文化、流行、食文化
- ⑤どんなことでも研究分野にできるのが文シス！先生達もおもしろくて優しい方ばかりだよ！ぜひ、文シスと一緒に頑張りよう☆

K・S(3年)

- ①岩手県立西和賀高等学校
- ②様々なジャンルのものづくり、似顔絵
- ③無所属
- ④いま一番興味があるのは若者文化
- ⑤幅広い中から自分のテーマ設定が出来る文シスで、興味のあることが見つかるかも！

Y・M(2年)

- ①北海道帯広三条高校
- ②書道 読書 キャッチボール
- ③なし
- ④一人の事を専門的にドンドンやるだけでなく、幅広い事を学びたい。
- ⑤大学に来ればいろいろな所から来た新しい友達に出会え、良い刺激を受けます。受験勉強は大変ですが、是非乗り切ってほしいと思います。

M・O(4年)

- ①宮城県・宮城野高校
- ②趣味：おえかき サッカー観戦
特技：鼻が利く(?)
- ③.....
- ④メディアリテラシー
文化領域論
エスニシティ などなど。
- ⑤自分のやりたいことを、心ゆくまで学んでください。文シスにはその環境がありますC(^ω^*)

M・K

- ①岩手県 盛三
- ②読書と登山
- ③ワンダーフォーゲル部
- ④岩手日報との共同調査で学生の新聞に対する意識みたいなものを調べた事が...
- ⑤大学には学生、教員問わず実に色々な人がいます。私自身、良い意味でも悪い意味でも様々な予想を裏切るタイプの人達に出くわしてきました。そしてまた、色々な知識も入ります。これもいい悪い問わずで、中には確実に知る必要もなかったものも...大学は動き出しさえすれば好奇心を刺激する何かに出会える楽しいところです。

R・S(3年)

- ①花巻市・花巻北高校
- ②模様替え・なし
- ③吹奏楽
- ④教育番組の影響について
- ⑤文シスはよく「なんでもあり」と言われます。この「なんでもあり」ななかで、自分の興味をどれだけ形にできるかに挑戦することができるコースが文シスだと思います。入ってみるまでなかなかよくわからないコースですが、皆さんとお会いできるのを楽しみにしています。

N・A(3年)

- ①秋田・湯沢高校
- ②今は海外ドラマにはまっています！
- ③なし
- ④今期は山本先生の演習で、シュルレアリスムという芸術運動について、池田先生の演習では、若者文化や思想についてやりました！
- ⑤文シスは個性豊かな先生方と、おもしろくて優しい先輩方が多くて楽しいです。それに文シスは幅広いことを多角的に学ぶことができると思います！

H・K(3年)

- ①岩手県・大東高校
- ②散歩、海外旅行・筋トレ？
- ③HEAT[バドミントン]
- ④西欧の文化・美術、または日本の地域文化
- ⑤文シスは文化について幅広く学ぶ事ができ、教授の方々も熱心に指導してくれます!!とても楽しいコースです☆

Y・K(3年)

- ①岩手・盛岡北高校
- ②スポーツ観戦 書道
- ③準硬式野球部
- ④主に力を入れているのはメディア文化論です！
- ⑤文シスは自分のやりたいことはもちろん、その他にも興味を持てることが沢山あり、色々な発見があって楽しいです。とても充実しているコースだと思います。

M・S(4年)

- ①花巻・花巻北高
- ②バイク 美術館に行ったり、美術鑑賞が好き。
- ③有機農業研究会
- ④コロキウムが面白かった。自分にとってはやりたいことできてると思う。文化への影響みたいなものを知るのが楽しいから。
- ⑤文シスは、「やりたいこと」というか、気になることは何でも調べつくせる(=卒論にできる)ところが魅力だと思う。他の学生がやることも、興味を持てることが多い。

編集後記

文シス紹介パンフいかがだったでしょうか？初めての編集用のパソコンソフトに大苦戦しながらも、なんとか形にすることが出来ました。パンフを作る専門の授業などはありません。文シスは、自分が動き出せば何でもできるということ、わかっていただけたと思います。このパンフレットを通して、高校生のみなさんが少しでも文シスに興味を持っていたら、また、大学への不安が解消できたなら、幸いです。

最後まで読んでいただきありがとうございました。

発行

岩手大学人文社会科学部国際文化課程
文化システムコース文化記号論演習受講生

編集

幅 夏 生

山田 悠平

小田邊 夢衣

佐藤 麗奈

濱田 穂奈美

